

ユーストアと合併(8月21日)
総合小売業で唯一「エコ・ファースト企業」
に認定される



バイオマスプラスチック製
容器を回収してリサイクル
を開始



食品リサイクルループが評価され「第1回
環境省食品リサイクル推進環境大臣賞 最
優秀賞」を受賞
新しい食品リサイクルループとして愛知県
尾張エリアで「DIDバイオマスリサイクルシ
ステム」が稼働



レジ袋無料配布中止店舗の地域が愛知、
岐阜、三重、富山、山梨、静岡に徐々に
拡大
旧ユーストアも含むユニー全店舗に廃棄物
計量システムを導入、着実に総廃棄物量
とコストを削減



環境配慮商品PB「eco!on」の審査を第三
者審査委員会が実施、認定された商品を
販売



岐阜県大垣市のアクアウォーク大垣のオー
プンに際して、大垣市環境市民会議と協
働で敷地内の緑地に植林し「レジ袋 市民
の森」と命名

環境省中部環境パートナーシップオフィス
と共催で「インタープリター養成講座」を
開設

国連世界食糧計画(WFP)に協賛して、子
どもを対象にした「給食プログラム」に参加



エコ博の前身「家族の食卓」セミナーをア
クアウォーク大垣で開催(「地球に優しい、
体に優しい食卓 エコライフ」をテーマに
登山家野口健さんのトークショーなど)



2008

2009

2010

生物多様性条約締約国会議(COP10開
催1年前)
ユニーは持続可能な社会構築を目指す
「エコ・ファーストの約束」の第1号から6
号までの企業の1年経過後の報告会を開
催。エコ・ファースト推進協議会が設立、
ユニーは幹事企業として貢献



ECO-
FIRST

レジ袋無料配布中止店舗が中部地方を中
心に166店舗、辞退率30%を超える
食品リサイクル率が30%を超え順調に推
進。国連地域開発センターの研修で途上
国の行政官がリサイクルループを見学
経済産業省カーボンフットプリント試行事
業に参加、環境配慮商品eco!onトイレッ
トペーパー、さらら(鶏卵)を試算

3.93kg
CO₂
アローザ12ロール(ダブル)

490g
CO₂
さらら卵パック(10個入)

CPO10開催1年前イベントに佐々木会長
が出演、参加事業として生物多様性を大
切にして栽培された「サステナブルコー
ヒー」を紹介



けやきウォーク前橋、アピタ長津田店で「エ
コ博」を開催、登山家野口健さんのトー
クショー、WFP協会のチャリティーオークション
名古屋市のアピタ千代田橋店が「エコ事
業所優秀賞」を受賞

ISO14001の審査登録機関を日本環境認
証機構に移転し更新を完了
有料レジ袋の売上げの一部を地域環境活
動に寄付(50市町96店舗/7,441,807円)
ファッションを学ぶ学生を対象に「リデ
ザイン プロジェクト(再生利用商品)」コン
テストを開催、入賞作品を授産施設で生
産、アピタで販売
国連世界食糧計画(WFP)に協賛して「給
食プロジェクト」に従業員の「ワンコイン募
金」を開始

生物多様性条約第10回締約国会議
(COP10)開催

ユニーのテーマ「テーブルの上の生物多様性」
COP10の生物多様性交流フェアに「テ
ブルの上の生物多様性」をテーマに参加



店舗でCOP10協賛イベントを開催、サ
ステナブルコーヒー協会の川島彰良会長、
名古屋市立大学の香坂玲先生のトー
クショーや日本モンキーセンターの「キッ
ズズー」、珈琲工房ひぐちの協賛でコーヒ
ーの試飲など





東日本大震災(3月11日)
2020年までにCO₂の25%削減を目指す
「チャレンジ25」キックオフイベント(総理大臣官邸)に参加
エコ・ファースト企業が震災影響での電力ピークを抑えるために「夏の節電目標」を環境大臣と交わす



愛知県と包括協定を締結、地産地消など地域活性化や環境保全、災害時の支援などを協働
ピアゴ蟹江店、省エネルギーモデル店舗としてリニューアル。従来型の店舗より30%省エネが目標



アピタ千代田橋店の環境活動が評価され「エコマーク小売店」第1号に認定



食品リサイクルループ「千葉県/ブライトピック、プリマハム、山崎製パン」「三重県/三功・酵素の里」「岐阜県、愛知県/中部有機リサイクル」「京都府、滋賀県、奈良県/京都有機質資源」が認定
環境省「活かそう資源プロジェクト」に参加、エコ博に出展
生物多様性「いろんな生きものと一緒に生きている」を子どもたちに伝えるために「モンキーサマースクール」を開催



ユニグループ・ホールディングス株式会社設立
第34回食品産業優良企業等表彰「環境部門」農林水産大臣賞を受賞



東日本大震災被災地復興支援「光のカケラプロジェクト」をNPOウイメンズアイ、ECOMACO、P&Gと共催



ユニグループ・ホールディングス株式会社でISO14001環境マネジメントシステムを開始

2011

2012

2013

レジ袋無料配布中止は176店舗、有料化店舗では辞退率89%、使用済みレジ袋のリサイクル回収開始
トレイを使わない販売にチャレンジ
アピタ千代田橋店に電気自動車の充電スタンドを設置



「エコ・ファーストの約束」を達成
食品リサイクルループを1府18県15件認定、再生利用等実施率65%
容器包装使用削減...レジ袋辞退率75%
全店舗で環境学習実施、環境関連事業者連絡会実施
電気自動車充電器を店舗に設置
店舗のドミナントエリアの自治体(千葉県・岐阜県・石川県・三重県・静岡県・神奈川県)と包括協定を締結
バイオマスプラスチック製品(レジ袋、PB「eco!on」の液体洗剤・柔軟剤の容器)の普及が評価され「第2回バイオマス製品普及推進功績賞」を受賞
レジ袋にバイオマスプラスチックを使用



東日本大震災の支援としてお客様と一緒に「ベルマーク活動」を実施、325万点収集



全店一斉クリーンアップキャンペーンで「Make a CHANGE Day」奨励賞を受賞



特集 子ども環境学習 [環境について学ぶための取り組み]

エコ・ファーストの約束 2

2014年11月に、愛知県・名古屋市で「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されます。ESD (Education for Sustainable Development) とは、「持続可能な開発のための教育」「持続発展教育」と訳されます。ESDは、一人ひとりが世界の人々や世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育です。ユニーは、ESDの考え方を取り入れた環境学習に取り組んでいます。



ESD (持続可能な開発のための教育) とは

地球の温暖化、資源の浪費と枯渇、生態系サービスの劣化など、私達人間が生きていくための基盤である地球環境が持続不可能な状況になりつつあります。また、世界中の人が私達日本人と同じ生活をすると、地球2.3個分の食糧や資源が必要だと言われています。このような状況であることを意識せずに食糧や資源を使い続けられれば、未来の子ども達は生きていくことが困難になるかもしれません。

だれもが幸せに生きることのできる社会、つまり持続可能な社会を構築するためには、今と未来に想いをよせ、地球の限りある資源を大切に使う暮らしや社会、そして一人ひとりの行動を変えていかないとはいけません。そのための学びあいがESD、持続可能な社会づくりのための教育です。

ESDは国際社会の中でその必要性がうたわれ、1992年の「国連環境開発会議」、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」を経て、2005年に「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」キャンペーンとして位置づけられ、世界各国でESDの取り組みを活性化するための期間が設定されました。最終年の2014年に愛知県名古屋市で開催される「持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」は、その10年間のキャンペーンの成果と今後について協議する重要な国際会議です。このように国際社会、日本社会において、この持続不可能な社会状況を作り直すための人材育成、教育(ESD)を実施することが重要課題となっています。

私たちは応援します



ESDの歩み

- 1992年**
国連環境開発会議(ブラジル/リオ・デ・ジャネイロ)にて、持続可能な開発のための教育(ESD)の重要性をつたった「アジェンダ21」を採択
- 2002年**
持続可能な開発に関する世界首脳会議(南アフリカ/ヨハネスブルグサミット)にて、日本の提案による「ESDの10年」が実施計画に盛り込まれる。第57回国連総会にて、ユネスコを主導機関として「国連ESDの10年」(2005～2014)を採択
- 2005年**
「国連ESDの10年」スタート
- 2014年**
「持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」(日本/愛知県・名古屋市、岡山市)



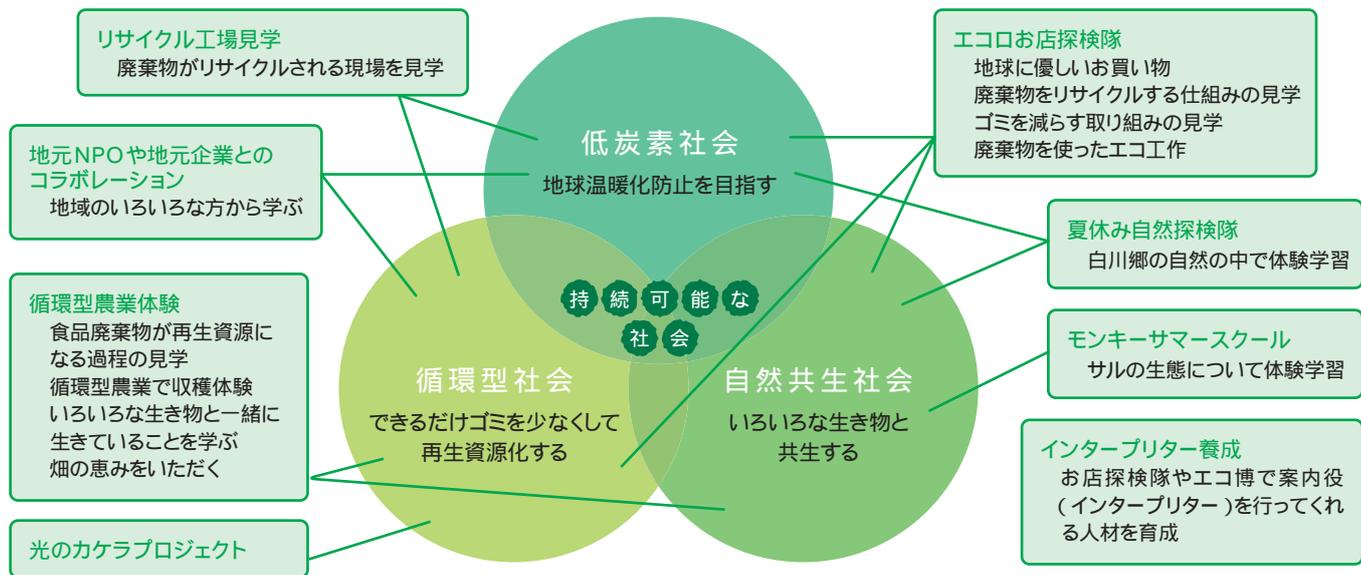
子ども環境学習のあゆみ

愛・地球博開催

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
環境学習	アピタ桑名店にて初めて実施	1店舗 (アピタ新守山店)	4店舗	5店舗	7店舗	13店舗	14店舗
自然探検隊	トヨタ白川郷自然学校 モンキーサマースクール	エコロフレンズ認定	白川郷合掌集落の前で	2005～	NPOとの協働	2007～	農業体験
農業体験	JA農業体験	三功			2005～	2006～	
企業コラボ	東邦ガス 中部電力 ブラザー工業 デンソー				2006	2006	2007
工場見学	中央化学工場見学 丸富製紙工場見学						2007～
EPOC							



ユニーは持続可能な社会をつかっていくために環境学習を実施しています。



循環型農業体験

私たちの毎日の食卓に並ぶ食物はどのように作られているのでしょうか？ ユニーが推進している食品リサイクルループの仕組みを見学したり農業体験を通して、「たくさんの生き物と一緒に生きること(生物多様性)」や「食べ物を大切にすること」を学びました。

JAあいち海部での農業体験

JAあいち海部のエコ部会では、食品リサイクルループで作った堆肥を使い、野菜や米を生産しています。お店で募集した子ども達やその家族と一緒に田植えや稲刈り、小松菜の収穫などの農業体験をしました。



生産者に手伝ってもらい、小松菜の収穫



カマを使って稲刈り体験

三功・酵素の里での農業体験

三功・酵素の里では、ユニーから排出された食品残さから堆肥を作り、その堆肥を使って野菜を作っています。直接土にふりての収穫を体験しました。



でき上がった堆肥をさわりました



さつまいも収穫体験



地元NPOや企業とのコラボレーション

地元NPOとのコラボレーション

ユニーの店舗の近くで活動しているNPOと一緒に環境学習を実施しました。ユニーは店舗を活動の場所として提供、NPOのプログラムを実施し地域とのコミュニケーションを深めました。



大垣市環境市民会議



エコネットふくい

企業とのコラボレーション

東邦ガス、デンソーなどの企業と共催で環境学習を実施しました。

東邦ガス

地元で作られた野菜や調味料を使ってエコクッキングをしました。野菜の皮なども工夫して調理し、おいしくいただきました。



デンソー

デンソーとの共同イベントでは、いろいろな力で車を走らせたり、科学実験などを行い、ラリー形式で店舗をまわりました。約400名が参加しました。





エコロお店探検隊

2001年にたった1店舗からスタートした「エコロお店探検隊」も、2012年には224回実施し3,358名が参加しました。持続可能な社会を構築するための体験を通して、未来を担う子ども達が地球環境を守ってくれることを願っています。

ユニーのお店では環境に対してどのような取り組みをし、環境に良い商品にはどのようなものがあるのでしょうか。店長を探検隊長にして、地域の小学生がお店で行われている環境保全活動や環境にやさしいお買い物を勉強します。環境問題は決して難しいことや大変なことではなく、身近なことから始めることができる、ということを感じて実践してもらいたいです。

リサイクルの秘密を知ろう

使い終わった容器の行方を見学!

家庭から排出される容器包装をリサイクルステーションで回収しています。回収することで、ゴミではなく新しいものに生まれ変わることを伝えます。



地球にやさしいお買い物をしよう

環境ラベルの意味を学ぼう!

子ども達が身近な文房具についている環境ラベルを探します。普段使用している下敷きやノートにも、リサイクルされたものや環境にやさしい素材で作られたものがあります。



お店の裏側を探検しよう

お店から出るゴミの行方を知ろう!

店舗の裏側を見学します。店舗から出るゴミは19種類に分別し、計量しています。計量することで、ゴミを減らすよう意識を高めます。また、折り畳み式のコンテナを使用し、段ボールの使用抑制に取り組んでいます。



エコ工作にチャレンジしよう

使わなくなったものを材料にした工作体験!

通常なら捨てられてしまう容器包装などを使用したり、自然の素材を使ったエコ工作を行います。捨ててしまえばゴミになってしまうものも工作で生まれ変わります。



ピアゴエコクイズラリー

ピアゴにて、ラリー形式の環境学習を開催しました。お店の環境の取り組みをラリー用紙を片手にまわり、身近なスーパーマーケットでの環境の取り組みを知りました。



自由研究応援隊

夏休みの宿題のヒントをお店で探そう! お店にはリサイクル・商品・環境ラベルなど、夏休みの自由研究のテーマがいっぱい。2012年は牛乳パックのリサイクルをテーマに展示を行い、自由研究のお手伝いをしました。



ユーホームお店探検隊

ホームセンターであるユーホームならではの環境の取り組みを学びました。太陽光パネル・LEDライトなど今まで少し難しいと思っていたことが身近に感じることができるようになりました。また、端材を使いオリジナルプランター作りを行いました。





夏休み自然探検隊

2005年からトヨタ白川郷自然学校で夏休み自然探検隊を開催しています。2012年は「未来のエコストア」に応募した小学4年生から6年生の24名が世界遺産白川郷で自然探検をしてきました。

先人の知恵

白川郷の合掌造りでは昔の人の知恵を学びました。



合掌造りの家はこんなふうなんだね。工夫がいっぱいだ！



白川郷の合掌集落はとっても大きくて独特の形をしているよ

自然に触れる

森や川、たくさんの自然に触れました。



インタープリターに森の秘密を教えてくださいました



3日間でいろいろな体験をしました



「上手に吹けるかな？」草笛の吹き方を教えてくださいましたよ



川の水を使って電気を作ろう！上流と下流、どちらがいいんだろう



白川村の「お！これは残したい！もの・こと・風景」を探しました

友達づくり

全国から集まった友達と仲よくなりました。



ちょっと背伸びをしてテーブルマナーの講習



川の水を水素と酸素に分解してエネルギーを作りだしました



森の木を使って工作！どの種類の木が作りやすい...？



モンキーサマースクール

2011年より日本モンキーセンターでサマースクールを開催しています。「ぼくの私の好きな生き物」をテーマに応募した24名の小学生が愛知県犬山市の日本モンキーセンターで人間に一番近い生き物であるサルのことを学んだり、理想の動物園を考え発表しました。



学芸員からサルの生態を学び、サル図鑑を自分で作りました



サルの種類によって食べるものが違うんだね



自分達で河原の石を削り石器を作りました。お肉も切れる！



手を使って上手にえさを食べている様子を観察しました



グループごとに理想の動物園を考えました